

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401400
法人名	株式会社 日進開発
事業所名	グループホーム くにみの里
所在地	〒859-1325長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416 (電話) 0957-78-3210

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	7月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤	12人, 非常勤	3人, 常勤換算 3.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費100円/日・実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	600 円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂・島原保養院・徳永歯科医院・まき歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームくにみの里は事業所の努力によって、低料金でサービスされている事が入居者のご家族に大変喜ばれている。その上何時も笑顔を決やさず迎えられる取り組みがなされている。例えばご家族の訪問時には笑顔の対応はもちろん、お茶での一服を差し入れている。事業所内には芝生や樹木が植えてあり、周りも畑や緑豊かな自然があるため空気が非常においしく感じられる。またドライブに出かける時には家族にも連絡し、同行を希望されれば手料理をもって一緒に出かけ、家族との触れ合いの時間を楽しんでいる。職員も明るく楽しい方が揃っており、入居者の明るい笑い声がよく聞けるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮では入居者の使い慣れたものを持ってきてもらうなど、ご家族の協力のもと、取り組まれている。また入居者が不意に外へ出て、見失うことも想定して、入居者の顔写真とお名前、連絡先などが記載されている物を用意し、いざという時に対応できるように配慮されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を11月にコピーし配布、全職員で取り組み検討してもらった。その記入された物を管理者がまとめられている。評価の意義の理解として、自らが当たり前として気づかずにいる事に対する反省、確認のためにされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度、定期的に行われている。会議録は当ホームの活動状況の説明から始まり、参加者の質疑応答等が載せてあり、今後の取り組むべき方向性ははっきりし、サービスの向上に活かされている。また外部評価を議題にあげられるなど、地域の方に当ホームの取り組みを紹介されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月「くにみのさとだより」を発行され、たよりの中に普段入居者の方と接している職員の報告が記載する欄があり、入居者のご家族が知りたい内容の報告がなされている。また毎週電話連絡を取ることで、近況報告を伝えられている。ご家族からご意見を何時でもいただく姿勢を表すため、玄関には意見箱を設置し、書類にも苦情の窓口を記載されている。また家族アンケートにも取り組み、ご家族の意見を真摯に受け止められている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当ホームが所属する地域の自治会長が運営推進会議のメンバーであるため、「くにみのさとだより」で行事予定をお知らせし、地域の方も里まつりなどに何時でもご参加いただけるようおつきあいされている。また当ホームの周りは畑が多く、地域の方が作られた大根をいただくなど、地域に馴染まれている。行事の際には地域の方々もお誘いして、一緒に楽しめるなど、地域との連携を工夫されている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年から基本理念の他に、「私たちは介護サービスのあり方を認識し、入居される方の安心と尊厳のある生活を支援すべく、日々努めます」という地域密着型サービスとして職員で考えた介護目標を作り上げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護目標を玄関に掲示しており、出勤時に必ず確認することで、理念の実現に向けて取り組まれている。またさらに「くにみの里の応援歌」をつくれ、入居者と共に歌い合いながら安心と尊厳のある生活を目指されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームが所属する地域の自治会長が運営推進会議のメンバーであるため、「くにみのさとだより」で行事予定をお知らせし、地域の方も里まつりなどに何時でもご参加いただけるようにおつきあいされている。当ホームの周りは畑が多く、地域の方がつくられた大根をいただくなど、地域に馴染まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員一人ひとりに配られ、記載されたものを管理者がまとめている。評価の意義の理解として、自らが当たり前として気づかずにいる事に対する反省、確認のためにされている。また昨年度評価の改善内容として、居心地よく過ごせる居室の配慮では入居者の使い慣れたものを持ってきてもらうなど、ご家族の協力のもと、取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的にかかれている。参加者は入居者のご家族代表、民生委員、雲仙市地域包括支援センター職員、自治会会長、各棟の管理者、計画作成担当者が出席されている。会議録は当ホームの活動状況の説明から始まり、参加者の質疑応答等が載せてあり、今後の取り組むべき方向性がはっきりし、サービスの向上に活かされている。		

グループホーム くにみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは介護保険の更新などの際に顔なじみとなるべく、足を運ばれている。また当ホームが取り組まれている行事に参加してもらうことで、より親しくつき合いができるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「くにみのさとだより」を発行され、たよりの中に普段入居者の方と接している職員の報告が記載する欄があり、入居者のご家族が知りたい内容の報告がなされている。また毎週電話連絡を取ることで、近況報告を伝えられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からご意見を何時でもいただく姿勢を表すため、玄関には意見箱を設置し、書類にも苦情の窓口を記載されている。また家族アンケートにも取り組まれ、ご家族の意見を真摯に受け止められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は必要最低限に抑えながら、全職員で入居されている方々と親しくなるように努められている。異動した場合でも早く馴染みの関係になるために、入居者一人ひとりの手を握りながら笑顔で挨拶されるなどの取り組みがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	先輩職員が新人職員を働きやすいよう、チームケアがなされている。また職員が介護の専門の資格を取れるように支援がなされていたが、今年度は様々な諸事情により、思うように研修が行えていないと自覚されており、		今後は外部研修の情報を確実に得られ、職員の技術に応じた研修受講の支援が望まれる。また内部研修も自己評価などを利用され、グループホームに求められていることのさらなる理解度につなげられる事に期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月雲仙市にあるグループホーム連絡協議会で交流され、情報収集されている。平成21年の1月からは職員も参加する研修会を企画され、今以上の交流を図られる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内のデイサービスから遊びに来られ、当ホームの入居者の方々と馴染まれてから入居されるように取り組まれている。また入居予定の方の自宅へ職員の手製の弁当を持参し、食事を取りながら馴染みの関係を築かれている。中には見学されたその日に当ホームを気に入り、そのまま入居された方もおられるなど、馴染みやすい雰囲気作りに取り組まれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方に戦争時代の話や、時には「大根は笑いながらおろすと美味しいよ」と教えられるなど、人生の先輩として敬いながらも、楽しい雰囲気の中で支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が日々望まれていることを把握するために、日々の出来事から職員の気づきによって日誌に記入され、職員の共有に努めている。意向の把握が困難な方にはご家族と相談され、これまでの生活歴を検討しながら把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人の意向やご家族の望みを取り入れて作成されている。またドクターの意見も尋ねながら日々の状態、職員の気づきを基に、毎月のケア会議において話し合われている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本は3ヶ月に1度のモニタリングをおこなっている。日々の記録の書式に介護計画を記入する欄があり、介護計画の達成度を確認している。入居者の状況によっては臨機応変に介護計画の見直しがなされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の中で入居者の体力が落ちすぎないように散歩などを通して歩行訓練の支援がなされている。また里まつりなどでホームまでなかなか足を運びにくいご家族がいらっしゃれば、ホームの車で送迎されるなど、柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医との関係を大切にされ、報告、連絡、相談の連携がとれている。また定期的な協力医の往診もあり、入居者が健康面でも安心して生活できるように支援がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホーム独自の看取りの指針が用意されており、入居者のご家族にも同意を得ている。協力医との連携もとられ、重度化した際は必ず職員が2名以上で見守るなどの方針がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩であることを意識し、尊敬の念を持ちながら、かつ親しみを込めて言葉掛けがなされていた。また過去に声掛けで失敗されたことがあり、その経験を内部研修で全職員で認識し、相手の立場にたった言葉掛けがなされている。個人情報を書かれた書類は事務所に保管され、容易に第三者の目に触れないように取り組まれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩ができるような天気には、自由に出していただける。その際は目配りや気配りでその入居者のペースを乱さないような支援がなされている。またこれまで馴染みの美容院にも気兼ねなく利用できるように連絡などの支援が行われている。		

グループホーム くにみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はホーム内の台所で行われ、野菜を切る音や調理された匂いなども通して食事を楽しむ支援につながっている。また入居者にも一緒に調理を手伝ってもらって、楽しく作られている。食事は職員も一緒に食べることで、料理の味付けなどの会話を楽しまれていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1度の入浴だが、本人が希望すれば毎日入浴を楽しむことができる。入浴を望まれない方に対してはその理由を探り、場合によっては職員も一緒に入るなどの工夫がなされており、安心して入浴が楽しめるように支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が当ホームの草むしりや花を植えるなど、植物を育てることを役割としておられたり、折り紙を折るのが得意な入居者には広告紙を用いて袋を折っていただくなど、それぞれの方に合わせた支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院受診の帰りにホームの近くにあるフラワー公園で散歩することがある。また敷地が広いため車イス利用者の方も1日1回は、安全に外で日光浴ができるなどの支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けることなく、自由に外出していただけるようにしている。その際目配りや玄関のチャイムで入居者の外出には見守りながら同行したりと、気を配られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災などの災害を想定され、スプリンクラーの設置や消防署の立ち会いのもと、昼間や夜間を想定して避難訓練を年2回行われている。また備蓄は事務所にカセットコンロを用意されたり、入居者の名前が記載されている写真を用意されている。		さらに今後は地震などの災害も想定され、水の確保や避難場所を調べるなど、様々な災害に対応できるマニュアルを用意されることに期待したい。

グループホーム くにみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間のメニューを作成し、同法人の別の施設の栄養士に見てもらっている。また水分量も1日1リットル以上の摂取を目安にされている。食事も個々の状態に応じてキザミ食などの工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内には芝生が綺麗に刈り込まれており、また花壇なども草を抜いて可愛い花が咲いているなど、気持ちよく外気浴が楽しめる。また居心地の良さそうな畳の居間があったり洗濯する部屋にも腰掛けにちょうど良い段があり、そこで洗濯物をたたまれているなど、使い勝手の良い工夫が見受けられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机やイス、家族の写真や使い馴染まれたカーペットがあるなど、入居者が安心して暮らせる一人ひとりの居室となっていた。		